A 21

家庭面でみた生活意識と生活条件（第５報）
－第２回調査の家庭周期別分析－

大谷女短大　○三木栄子・山田光江

【目的】第１回調査と同一の対象群（某女子大卒(s11-61)文・理・家政学部出身者）に実施した第２回調査について、全体の単純集計結果と項目相互の関連の有無[1]、並びに出身学部別の差の有無を検討した[2]。今回は第１回調査に於いて他項目の全てと関連し、年齢別よりも対象者の生活意識を捉えやすかった[3]家庭周期を取り挙げ、前回同様年齢別による差と較べながら、第２回調査項目についての各周期別特徴を求めようとした。

文献　1)大谷女子短期大学 紀要33号p26(1990)　2)家政学会第42回大会研究発表要旨集p4(1990)　3)大谷女子短期大学 紀要32号p12(1989)

【方法】家庭周期無記入者2名を除く898名について、各周期別に各項目の選択肢の分かれ方を百分比で表した。同時に卒業年次別（ほぼ年齢別・無記入者なしの900名）も並行し、検定はｍ×ｎ分割χ^2法によった。さらに学部別（文271理303家324）検討も加えた。

【結果】①夫婦前期・出産育児期の集合住宅に住む割合が他時期に比べ多く(**)、前回同様、同時期の別居志向が窺えた。②車の免許使用率は出産育児期が高かった(**)。③老後の不安で〔介護〕と答える人は、夫婦後期が多かった(**)（年齢ではばらついた）。④年齢別では有意な差は得られず、周期別で差の得られた項目は食物に関するこだわり(**)、住まいに関するこだわり(**)、及びキッチンの主熱源(*)であった。⑤その他 家庭生活に関わる項目に周期別の特徴が認められるのは当然としても、個人的な意識とみなし得る項目（金銭、時間感覚・おしゃれ等）も年齢別で比較するよりも顕著な特徴が検出できた。⑥周期別特徴の得られなかったのは、返信時期（年齢別は**）と、老後の心の支えになる事柄（年齢別もｎ.ｓ.）であった。⑦周期別特徴の学部別差の有無については目下検討中。